



# FIELD-TERRACE

## 新機能

更新日 2020/10/20 (バージョン 1.0.1100)

**FIELD-TERRACE (2020/10/20) の  
新機能をご紹介します。**

# 目次

## 新機能

# FIELD-TERRACE

更新日 2020/10/20 (バージョン 1.0.1100)

## 1 画面構成の変更 P.1

- 1-1 メニューボタンの追加 \_\_\_\_\_ 1
- 1-2 お知らせ機能の追加 \_\_\_\_\_ 1

## 2 GNSS P.2

- 2-1 GNSSに対応 \_\_\_\_\_ 2

## 3 測設・観測・3D施工 P.5

- 3-1 建設CADの測点表記（測点スタイル）の連携 \_\_\_\_\_ 5
- 3-2 測距中の拡大箇所や拡大率の保持 \_\_\_\_\_ 5
- 3-3 誘導画面の改良 \_\_\_\_\_ 6
- 3-4 記録確認画面のスキップ機能を追加 \_\_\_\_\_ 6
- 3-5 [観測] - [横断放射] で記録時の点名見直し \_\_\_\_\_ 7
- 3-6 LN-100/150側でサーチ開始時に、「サーチ中・・・」を表示 \_\_\_\_\_ 7
- 3-7 背景図面が表示される画面の画面遷移を改良 \_\_\_\_\_ 7

## 4 器械設置 P.8

- 4-1 測距した後視点の保持 \_\_\_\_\_ 8
- 4-2 採用する後視点の選択 \_\_\_\_\_ 9
- 4-3 後方交会時に注意メッセージを表示 \_\_\_\_\_ 9

# 1 画面構成の変更

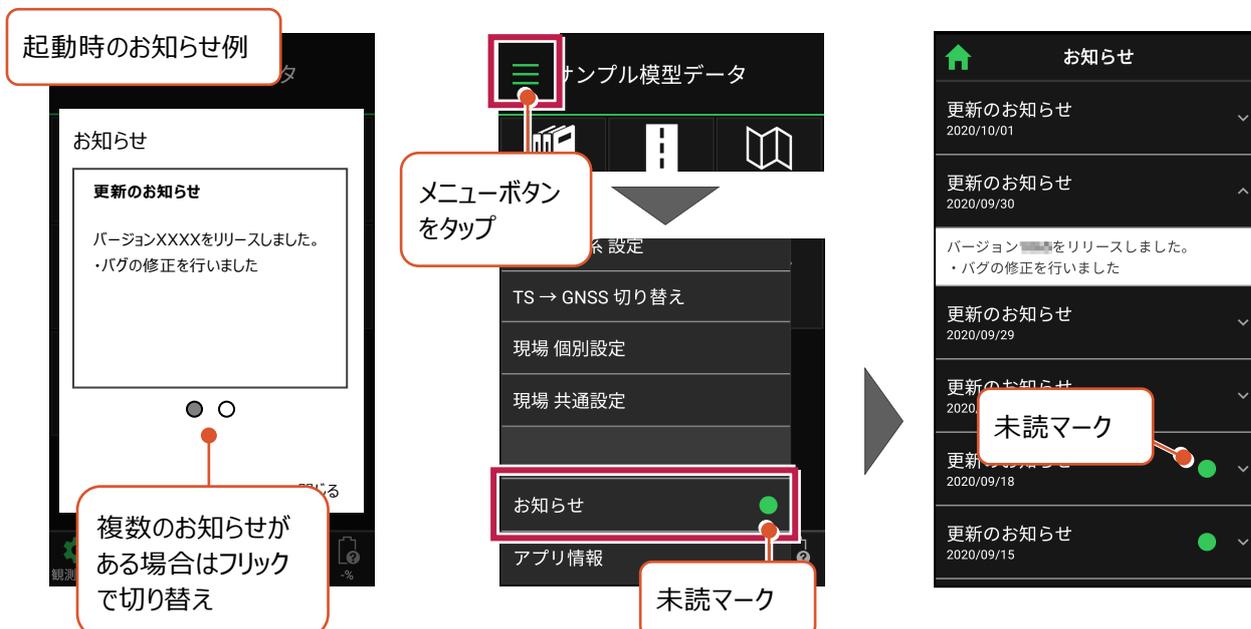
## 1-1 メニューボタンの追加

メニューボタンを新設し、コマンドを整理しました。



## 1-2 お知らせ機能の追加

プログラムの起動時にアップデートなどの情報を「お知らせ」で表示します。  
過去のお知らせは、メニューボタンの「お知らせ」から確認できます。



# 2 GNSS

## 2-1 GNSS に対応

GNSS機器による観測に対応しました。

### ■ 対応機器

観測方法	メーカー	機種名
RTK RTK (既設基準局使用)	TOPCON	HiPer SR
		HiPer HR (※1)
		HiPer HR (無線) (※1、※2)
	SOKKIA	GSX2
		GCX3
VRS	TOPCON	HiPer SR
		HiPer HR (※1)
	SOKKIA	GSX2
		GCX3
汎用NMEA	—	—
端末位置情報	—	—

※1 「TILT (傾き) 機能」は使用できません。

※2 無線機能 (内蔵セルラーを使用したネットワーク接続) は「RTK」でのみ使用できます。「VRS」では使用できません。

FIELD-TERRACEをインストールした端末の位置情報にも対応しており、日々業務の活用も可能です。

例えば図面や3D設計データで、自分が現場のどこにいるのかを把握できるため、現場巡回や現場状況の確認に活用できます。

## ■ GNSSモードへの切り替え



## ■ GNSS観測時のツールバー

- ・ 機器設定 : 観測方法、基準局・移動局のメーカー機種選択
- ・ ステータス : Fixed等ステータス、補正データ等受信状態
- ・ 衛星 : 衛星数、天空図
- ・ アンテナ : アンテナ高
- ・ 通常/単点観測 : 観測手法の切替、その他観測関連の設定



## ■ 機器設定

- ・ 観測方法
  - RTK
  - RTK(既設基準局)
  - VRS
  - 汎用NMEA
  - 端末位置情報 (内蔵GNSS)
- ・ 基準局・移動局は異なる機種でも接続可能
- ・ ICT建機で使用中の基準局とも接続可能
- ・ 補正データは、ジェノバ/日本テラサット対応
- ・ NMEAは、GGA/GSVのみ、1Hzで出力
- ・ 端末位置情報でもローカライズ可能



### ■ 受信ステータスの確認

- ・ 受信機からの測位データの確認が可能。



### ■ 衛星情報の確認

- ・ 観測中の衛星情報を、随時確認が可能。
- ・ JENOBAサイトにて衛星飛来予測の確認が可能。



# 3 観測

## 3-1 建設 CAD の測点表記（測点スタイル）の連携

EX-TREND武蔵の建設CADの線形の測点表記（測点スタイル）を、FIELD-TERRACEの測点にも反映するようにしました。

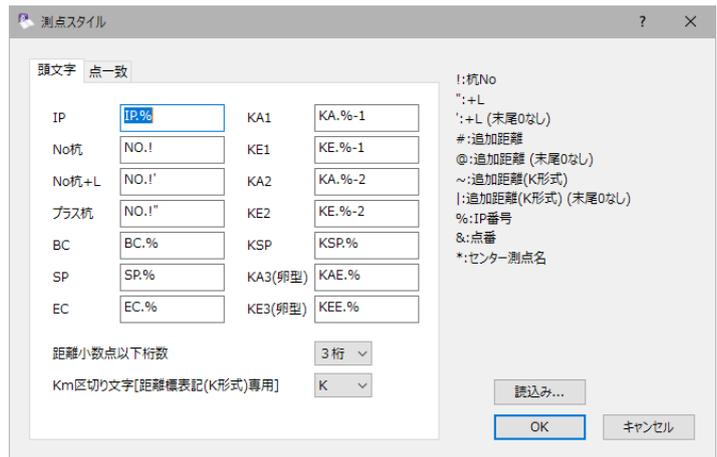
「NO表記」以外の

- ・SP表記
- ・STA表記
- ・距離標表記

の場合でも、そのままの測点表記でFIELD-TERRACEで観測できます。

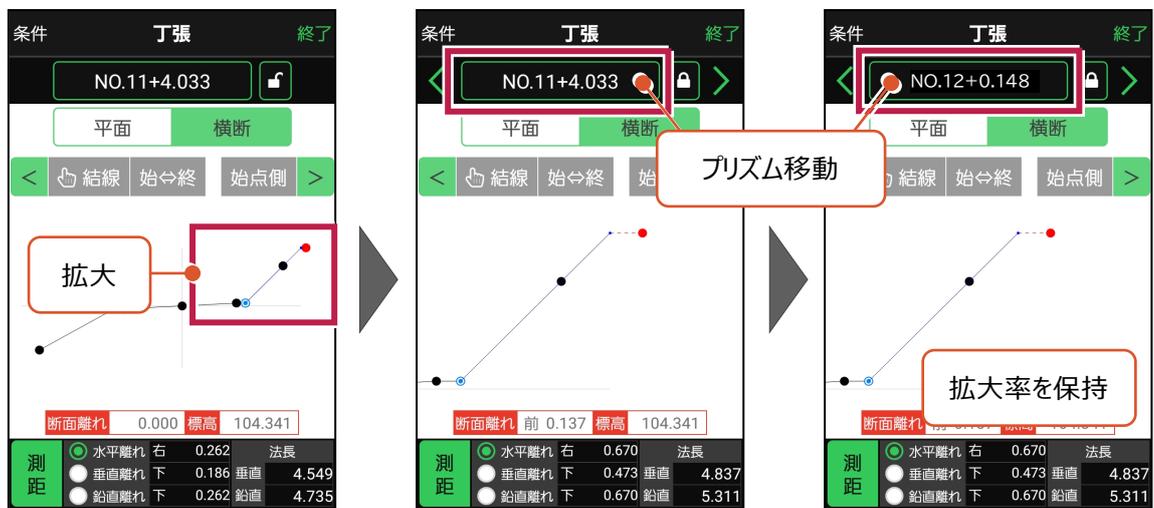
※「距離標表記（K形式）」は「距離標表記」になります。

【EX-TREND武蔵の測点スタイル】



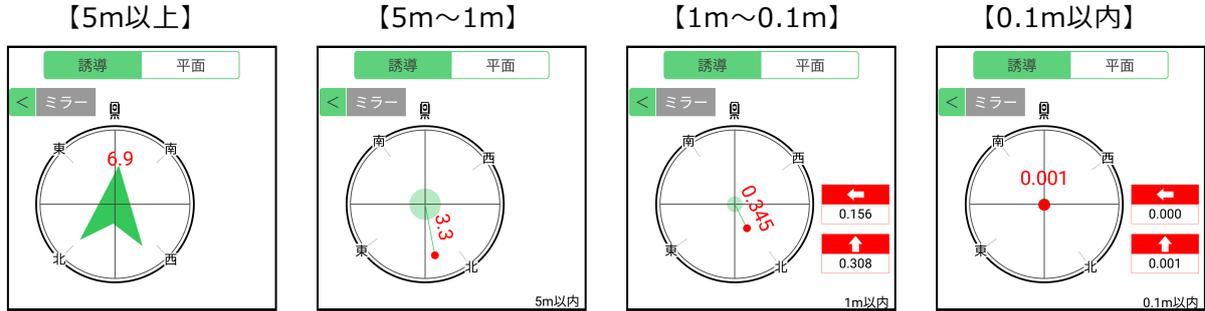
## 3-2 測距中の拡大箇所や拡大率の保持

プリズム（ミラー）が移動しても、画面の拡大率をできるだけ保持するようにしました。



### 3-3 誘導画面の改良

測器に対して、十字線を描画するように（東西南北の線は目立たないように）しました。



### 3-4 記録確認画面のスキップ機能を追加

記録時の確認画面をスキップできるようにしました。スキップ時の測点名は、以下のようになります。

- [測設]-[座標]
  - ・SZ-目標点名
- [測設]-[路線]
  - ・SR-目標点名
- [測設]-[横断変化点]
  - ・SO-断面名-連番
  - ・SO-連番（断面名が求められなかったとき）
- [観測]-[放射]
  - ・KH-連番
- [観測]-[路線]
  - ・KR-連番
- [観測]-[横断放射]
  - ・測点名+左右（L/R）+センター離れ距離  
 道路の場合は、始点側から見た左右  
 河川の場合は、終点側から見た左右  
 センター離れ距離の丸めは小数部3桁で固定（例：No.1L2.000）
  - ・KO-連番（断面名が求められなかったとき）
- [3D施工]-[点検・検査]
  - ・ST-断面名-連番
  - ・ST-連番（断面名が求められなかったとき）

チェックをオンにすると、次回からスキップされます。



元に戻す場合は、ホーム画面のメニューボタンから [現場 個別設定] - [観測画面 設定] を開き、「記録時に確認画面を表示しない」のチェックをオフにします。



### 3-5 [観測] - [横断放射] で記録時の点名見直し

[観測] - [横断放射] で記録時の測点名の初期値を、「測点名+左右 (L/R) +センター離れ距離」にしました。  
例) No.3+0.195L2.147

### 3-6 LN-100/150 側でサーチ開始時に、「サーチ中・・・」を表示

LN-100/150側でサーチを開始した時に、「サーチ中・・・」というメッセージを表示するようにしました。  
キャンセルをタップして、サーチ停止が可能です。

### 3-7 背景図面が表示される画面の画面遷移を改良

背景図面が表示される画面について、スムーズに遷移するように改良しました。

# 4 器械設置

## 4-1 測距した後視点の保持

器械設置時（既知点・後方交会）に、後視点の測距情報を保持するようにしました。

器械設置時に途中で中断した場合やアプリケーションが落ちた場合などの時に、最後に測距した状態から再開することができます。

### 【既知点】

最後に測距した状態が保持された状態で再開します。



### 【後方交会】

測距した状態が保持された状態で、最後に測距した後視点から再開します。

（右図は「後視点2」を測距した状態から再開）



## 4-2 採用する後視点の選択

後方交会で器械を設置する際に、基準標高の自動計算で使用する後視点を、観測した後視点から選択できるようにしました。



## 4-3 後方交会時に注意メッセージを表示

後方交会で器械を設置する際に「夾角が30°~150°の範囲外」の場合、注意メッセージを表示するようにしました。

